

日刊 磐城時報

編輯 藤田 弘成
印刷 藤田 弘成
發行 藤田 弘成
社址 磐城 石城郡平町
電話 一四三三
代金 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告 一行一四文字 日五元 一月十五元 三月四十元 半年六十元 一年一百元
印刷 藤田 弘成

本年は水温が低い

測候所、水試場で原因調査

近いうち例年の状態にならう

炎熱続きで二十八日の日曜の本縣各濱海水浴場は今夏始めのころから大賑ひを呈したが、どうしたのか本縣近海の水温は陸上と正反対に例年より非常に冷たく四倉、小名濱等は方に達する人出にもかゝはる海水にひたつて居る人は僅二三百名でこの人達も冷たくてすぐふるへ上る始末で海人を悲嘆させて居る、この海水の冷温はやがて氣象状態に變調を來さしめ本縣近海漁業、農作物等に至大の影響を與へるのて北海道東北六縣海洋調査會の問題とまでなり小名濱測候所本縣水産試験場等では目下冷温の原因その他について調査研究を續けて居るが、大体は暖寒流の關係らしく小名濱測候所では二十九日左の如く語つた。

小濱の大敷網

廿九日附で認可される

他の漁業には影響がない

石城郡植田町小濱漁業組合が同町の反對陳情があつたので縣地点から沖合二間、江名、小では直に水産試験場長及五十嵐名の大敷網より南方五千二百八十八畝水産技術を腰々出張せしめ實十間の地点に出願の角組網夏期地につき調査中の處他漁業者に漁業については既に長門出身費は何等悪影響をおよぼす様な事族院議員奥田賢太郎氏と小濱漁のなないのが判明するに至つたの業組合との契約の下に敷敷網を以て地元代表古川縣議などが地方投じて一切の投網準備をなし許産業の開發上から是非速かに許可の一日も速かなる様地元關係料を提出して陳情したので縣では小柳知事、金森内務部長などが協議の結果他漁業者との關係と條件を附して二十九日小濱組合に免許の指令を發した。

育英貸費生

石城郡關係者

費生を決定したが石城郡内で貸費をうける事に決定した者左の如し。

▲警崎村富岡信義(早稻田) ▲玉川村鈴木直一(水高) ▲植田町小野家量(日大)

自動車の違反者は今後體刑に處す

事故が日一日増加するので平署で處斷方針變更

平署管内における最近の自動車を示してゐるので平署では躍起事故はその統計によつて見るもとなりこれが防止に努力してゐる本縣は勿論のこと東北六縣におもが自動車は日一日増加し事都市をほるかに凌ぐといふ數字

如何に取締當局の訓辭も宣傳も何の甲斐もないので平署では從來の様な温情味のある處罰位では反省させることが出来ないといつて斷然違反者を體刑に處すの方針を採ることとなつた。

湯本平間軌道の撤廢方を申請

平土木監督所で知事に

石城郡湯本、平間約二里の間國鐵の意志、運轉休止は一時的か道に敷設してある日本鐵道興業永續的か更に營業狀態などに對して一應照會しその回答を待つて將來營業の見込立たずと認定した場合は軌道の撤廢を命ずることになる模様である。

▲神職講習會 石城郡神職講習會は廿九日から會を開催するが本部から黨首安部隆雄氏、赤松克廣をはじめ數名を以ての詐欺の疑ひあり取調

富士山竹馬踏破の記(二)

花澤輝一(記)

小林晴技記者

東京日日新聞社審判員

富士登山には東海道方面から登る御殿場口、須山口、須走口、大宮口の四ヶ所と中央線方面から登る吉田口の五ヶ所があり、吉田口から登つてお殿場口へ下るのが一番興味があること、思ひます、皆さんのうちで登山なされた方はおわかりになること、思ひます。私もこの吉田口をえらんだのであります。

竹馬の構造は高さは一尺、竹の長さは五尺、竹馬の足登はスタートは切つたのであります

スターの兩側は人の山である「シツカリヤツテ下サイ」吉田町長さんの萬歳裡に徐々として登つて行くのだ、朝露に濡つた森林帯を登つて行く朝日を浴びて居る富士の靈峯を望む時、あの頂上へ、あの三國一の山、世界に二つとない美しい富士山を竹馬で踏破すると思ふと本當に痛快に感じます。

「竹馬で乗り越す富士の高峰哉」の福島縣警署副署長酒井國三郎先生の應援の署名が浮かんでくる。瑠璃色の空、浮ぶ白雲、永遠から、永遠の處女の眸のやうに澄み渡つた奇麗な崇高な富士山、登山する

社會民衆黨

石城支部發會

社會民衆黨石城支部創立準備會平警察署高等係では三十日朝舉ではいよいよ、來る八月四日午後動不審の朝鮮人を引致し取調へ六時から平町警察署に於て支部中であるがこの男は日本名丸山

不審の鮮人

或は詐欺漢か

人々が口々に「あ、なんと美しい平和な景色なんだろう」と叫ばない人はいないので、一目目ではだんだら坂で三里程あり、九時十分通過竹馬は普通登山する人よりは早やいのです、登山するうちに、失敗するのはいそぐからである、いそぐから登山する人は「忙をぐべからず」と秩父宮殿下が申されたのであります。二合目九時三十分通過、三合目九時五十分通過、傳書鳩は寫眞を乗せて飛ぶ、靜岡縣の女學生の團體が應援する、登るにつれて次第次第に山らしくなつてくる

木村代議士

けふ出發

代議士木村清治氏は獨逸に開かる、萬國議院商會に出席のため八月一日神戸出帆見九で出發する筈であるが、三十日午後一時二十一分平發列車で出立送つた。

無燈火自轉車で 老人を轢き倒す

豊間村大字豊間字下町志賀周松なく又日雇を業としてゐたよけ
雇人阿部義保(二〇)は二十七日
午後八時頃無燈火自轉車に乗つ
て同村役場前を疾走中通行中の
酒井與三郎(六〇)に突き當り頭
部に全治一ヶ月の重傷を負はせ
人事不省に陥らしめたので平署
で取調中である。

平第一校 同窓會

加悦孝子女史講演
三十一日午後一時平第二小學校
に於て同校同窓會を催すが加悦
孝子女史の講演がある。

小名濱海岸に 不時着陸

千葉縣民間飛行家佐藤一等飛行
士は飛行機に搭乗して二十九日
仙臺市に向ふ途中ガソリン補充
のため午後三時頃小名濱海岸に
不時着陸し午後五時出發した。

花札賭博開帳

石城
郡野間村小田炭礦坑夫山木一郎
(三五)外五名は二十八日午後十
時ころ山木方で花札使用の賭博
開帳中平署員に發見され一網打
盡に檢査された。

哀れな一家

平町彌宜
町居住日雇業千葉平造(一九)妻
はなよ(二四)外二名の一家四名
は過般腸チフスに罹り何れも隔
離舎に收容されてゐたが平造は
遂に二十七日午後九時絶命した
同人一家はこれぞといふ身寄も

平町紺屋町
吉田眼科院
電話六八番

時報文藝

夏

(一) H S 生
單衣一枚を着て自由に歩ける
夫だけでも夏は愉快だと思ふ
今迄我慢して居た太陽が一時
に暑い光りを地上の凡ての顔
や背や腹へ叩きつけて、冬や
春の夢に眠つて居る人を急轉
直下に覺させさる。人々は始
めて夏が来たんだなと考へる
戦ひ乍ら恐れ入つて縮んで居
たもの迄、一時に渾然と勇躍
しておどる。其處で全く人は
他を看る事の爲めに自己を偽
ると云つた様な事はしない。
最も赤裸々に、最も卒直に、
勇敢に、そして冒險を敢てす
る、夫で居て決して何かに落
込んで行くのではないか等と
考へて居る暇などはない。其
處が夏だと思ふ。
自己の思索の有るだけ、心の
底から出て來る藝術?と眞の
叫びを一つ一つ片付けて行く
愉快な事だと思ふ。

暑中御伺納涼大興行
近日公開
満都熱狂のレビュート
映畫の夕
御要心如何ばかりか皆様の神
經を驚ます事か。
妖艶の美女集團
無比の美少女集團
東京ローヤルレビュート團
來演

炎熱忽ち去つて涼風たち
ごころにいたる
レビュート十一景
1 舞踊 波浮の港
2 獨唱 平行進曲
(歌詞當日發表)
3 タンバリンダンス
4 獨唱 銀座戀
5 獨唱 アラビヤの唄
6 獨唱 フラッシュダンス
7 奇想天外 フラッシュダンス
8 舞踊 浅草行進曲
9 獨唱 紅屋の娘
10 舞踊 モンパ
11 東京ラッシュ三態
12 東京ラッシュ三態
(一座總出演)

▲映畫
帝キネ名作
現代劇
マキノノ特作
時代劇
普料通金
有聲座

佛國マルソー會社元詰
生葡萄酒
マルソー・ブランク・白 子 1.1 0.
マルソー・ルージュ・赤
良品にして安價賣行飛ぶが如し
西村屋藥局

鼻の樂「テクノール」
平五 山野遊樂局

油と味噌
味噌
山崎合名會社
東京支店
上野車坂四三
電話下谷五七二二番
振替東京六八三二二番

外科
花柳病科 専門
平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番

耳鼻咽喉科 専門
新築
移轉
場所 合津醫院
平町仲田町七一
電話五九五番

ウシの日賣出し(三十一日)
本場
大かばやき 一圓以上
前戸江 井 八十錢以上
うな 一圓以上
配達迅速に致します
平館 隣り(電話四二四番)

妻テフ送葬の際に酷暑の砌遠
路態々御會葬被成下且御鄭重
なる御香奠を賜はり厚く御禮
申上候先は不取敢以紙上御挨拶
申述候
昭和四年七月三十日
永山和平

夏!!
夏!!!
旅行に外出に
涼し氣な「バラッル」
麥帽の道行
夏物の御用意は何時も新
し味の溢るる「ツルヤ」へ
〇四一電 日丁四平
店商ヤルツ

夏服はなかやで
輕快で瀟灑な夏服の季
節となりました
新製のレデーメイドク
豊富に取揃ひました
◎輕裝上衣
黒セル 6.50ヨリ
カシミヤ 9.50ヨリ
パンピス 5.00ヨリ
◎白チヨッキ 2.00ヨリ
◎白ツボン 3.00ヨリ
なかや洋服店
平二 電話 203

謹告
本日は本店葬儀當日につき臨
時休業仕候
昭和四年七月三十日
平町四丁目
永山酒造店總發賣元敬白